

2011年3月18日21時  
糸長浩司、浦上健司、小澤祥司（日本大学）

1. 飯館村は、村として、自主的集団避難先を栃木県鹿沼市にある県立体育館に確保し、村人の1/3の2000人の集団避難指導に入った。夕方までに、地区別の説明会を開始し、19日の午後に決行する。バズて県境まで行き、そこで、放射能汚染チェックを各自受けて、県境を越えるという。強制ではなく、自主的集団避難として進める。

下記が、までいな暮らし普及センター長の佐藤氏のメール文です。

「飯館村の自主的集団避難を明日午後に決行する地区説明を終え、事務所にもどって来ました。住民の深刻な心配は、親戚や知人が多くいる南相馬市民の情報として、既に避難した世帯の火事場泥棒が横行している、家を留守にするとそれが怖いので避難したくて出来ない、というものです。こうした村民の声に、自治体としてやれることは「消防団などで自衛手段を講じてください」というのが精一杯です。至急、警察や自衛隊などの力を住民の財産を守ることに注いでください。営々と積み上げたきた財産を津波や原発事故で失っているのに、これ以上失いたくありません。」

火事場泥棒という酷い状況も現場では起きている。

2. 一方で、村に残ることを選択した施設がある。村営の特養老人ホームである。所長の三瓶氏の決断は下記に記す。

「当ホームは、116名の入所者、5名のショートを抱えております。終末期に入っている利用者3名、経管者15名、リクライニング対応の利用者15名、車いす61名、歩行可能な方18名です。

もし非難をすとなりますと、大きなリスクを抱えることになることと合わせて、職員が分散してしまいます。したがって、緊急危難命令が出るまでは本施設にとどまる選択を職員ともども決めました。見捨てられているとは、どの職員は感じておりません。極力職員の安全も確保しながら、利用者にも安楽な日々を過ごしていただくつもりです。

ライフラインは大丈夫です。薬と、兼管栄養等があれば心配はありません。その支援は是非声をかけていただければ幸いです。皆、冷静に対応しておりますのでご安心ください。」